

541 785

(19)世界知的所有権機関  
国際事務局(43)国際公開日  
2004年8月5日 (05.08.2004)

PCT

(10)国際公開番号  
WO 2004/065958 A1(51)国際特許分類<sup>7</sup>:

G01N 33/48, B01J 20/26

(21)国際出願番号:

PCT/JP2004/000480

(22)国際出願日:

2004年1月21日 (21.01.2004)

(25)国際出願の言語:

日本語

(26)国際公開の言語:

日本語

(30)優先権データ:

特願2003-013754 2003年1月22日 (22.01.2003) JP  
特願2003-108163 2003年4月11日 (11.04.2003) JP

(71)出願人(米国を除く全ての指定国について): 積水化学工業株式会社 (SEKISUI CHEMICAL CO., LTD.) [JP/JP]; 〒5308565 大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号 Osaka (JP).

(72)発明者; および

(75)発明者/出願人(米国についてのみ): 宇治義則 (UJI, Yoshinori) [JP/JP]; 〒8600844 熊本県熊本市水道町13番10-907 Kumamoto (JP). 戸川勝也 (TOGAWA, Katsuya) [JP/JP]; 〒7460006 山口県周南市開成町4560 積水化学工業株式会社内 Yamaguchi (JP). 五十川浩信 (ISOGAWA, Hironobu) [JP/JP]; 〒1058450 東京都港区虎ノ門2-3-17 (虎ノ門2丁目タワー) 積水化学工業株式会社内 Tokyo (JP).

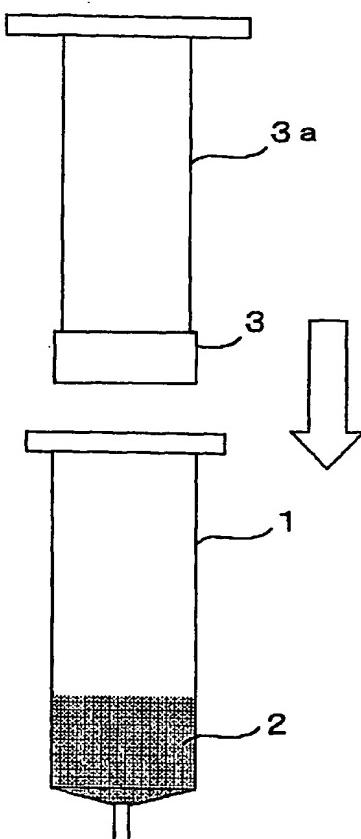
(74)代理人: 宮崎主税, 外 (MIYAZAKI, Chikara et al.); 〒5400012 大阪府大阪市中央区谷町1丁目6番5号 西村ビル Osaka (JP).

(81)指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM,

〔続葉有〕

(54) Title: FILTER FOR REMOVING FIBRINOGEN, FILTER DEVICE FOR REMOVING FIBRINOGEN, AND METHOD OF REMOVING FIBRINOGEN USING THE SAME

(54)発明の名称: フィブリノーゲン除去用フィルタ、フィブリノーゲン除去用フィルタデバイス、及び、それらを用いるフィブリノーゲン除去方法



(57) Abstract: It is intended to provide a filter for removing fibrinogen and a filter device for removing fibrinogen and a method of removing fibrinogen using the same by which a serum sample not affecting blood examination data can be quickly prepared from plasma. A filter for removing fibrinogen from plasma which is made of a fiber mass, microparticles or a porous polymer capable of adsorbing fibrinogen, has a surface area of  $0.5 \text{ m}^2/\text{g}$  or larger and a porosity of 85% or lower.

(57)要約: 血液検査の結果に影響を与えることのない血清試料を血漿から迅速に調製できるフィブリノーゲン除去用フィルタ、フィブリノーゲン除去用フィルタデバイス、及び、それらを用いるフィブリノーゲン除去方法を提供する。血漿からフィブリノーゲンを除去するためのフィルタであって、フィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーからなり、表面積が  $0.5 \text{ m}^2/\text{g}$  以上であり、空隙率が 85% 以下であるフィブリノーゲン除去用フィルタ。



DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU,  
ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS,  
LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA,  
NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE,  
SG, SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US,  
UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL,  
SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG,  
KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH,

CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU,  
MC, NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG,  
CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:  
— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

## 明細書

フィブリノーゲン除去用フィルタ、フィブリノーゲン除去用フィルタデバイス、及び、それらを用いるフィブリノーゲン除去方法

5

## 技術分野

本発明は、血清又は血漿に含まれるフィブリノーゲンを除去する方法及びそのための部材に関する。

## 10 背景技術

臨床検査では病気を診断するために、血液検査が広く用いられている。血液検査の多くは血清検査であり、検査に要する血清は、通常、血液検査容器に採取した血液を、凝固させた後、遠心分離することによって、比重の異なる血餅、即ち、フィブリンと血球成分が混合したゲル様塊状物から分離されたものである。血液検査容器には、血液を凝固させるために凝固促進成分が添加されており、それらは従来吸着性無機物等が用いられていたが、又は、最近ではトロンビン、蛇毒といった酵素が用いされることによって、凝固時間が短縮され、検査結果が得られるまでの時間を短縮することにより、利便性が向上している。

一方、年々増加してきている透析患者の血液は、抗凝固剤が投与されているために凝固時間が異常に長くなり、検体が得られるまでに相当な時間が必要であった。このような課題から抗凝固剤であるヘパリンを中心とする成分と凝固促進成分を併用した血液凝固促進剤が開発され、凝固時間の短縮に貢献している（特開昭62-240617号公報、特開昭63-275953号公報参照）。

しかしながら、これらを用い、血液の流動性がなくなり凝固が完了し

ているようであっても、遠心分離した後に徐々に血清中にフィブリンが析出してくることがあり、このフィブリンによって、検査装置のノズルがつまつたりすることが頻繁に起こっている。

そこで、特開 2000-309539 号公報に記載されているように、  
5 親水化された高分子纖維集合体等を用いて、血漿中に含まれるフィブリノーゲンを除去して血清を得る方法が開発されている。

しかしながら、特開 2000-309539 号公報に記載の方法では、  
血漿中に含まれるアルブミン等の蛋白質も同時に吸着除去してしまうため、この方法により得られた試料は、かかる物質を測定対象とする血液  
10 検査に供することができないという問題があった。

#### 発明の開示

本発明は、上記現状に鑑み、血液検査の結果に影響を与えることのない血清試料を血漿から迅速に調製できるフィブリノーゲン除去用フィルタ、フィブリノーゲン除去用フィルタデバイス、及び、それらを用いる  
15 フィブリノーゲン除去方法を提供することを目的とする。

本発明 1 は、血漿からフィブリノーゲンを除去するためのフィルタであって、フィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーからなり、表面積が  $0.5 \text{ m}^2/\text{g}$  以上であり、空隙率が 85 %  
20 以下であるフィブリノーゲン除去用フィルタである。

本発明 2 は、血漿からフィブリノーゲンを除去するためのフィルタデバイスであって、円筒状の容器にフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーが充填されているフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスである。

25 以下に本発明を詳述する。

本発明 1 のフィブリノーゲン除去用フィルタは、血漿からフィブリノ

一ゲンを除去するためのものである。

上記血漿は、通常、抗凝固剤を加えた血液を遠心して血球を沈殿させ、透明な淡黄色である上清を回収することにより得られる。

なお、本発明においては、上記血漿にはフィブリノーゲンが混入して  
5 いる血清も含まれる。

本発明1のフィブリノーゲン除去用フィルタは、フィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーからなるものである。

上記フィブリノーゲン吸着性の纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマ  
10 ーとしては、フィブリノーゲン吸着性があれば特に限定されず、どのような素材からなるものであっても良い。ただし、本発明1のフィブリノーゲン除去用フィルタは、血液検査に用いるものであるので、検査に影響するほどの鉄、亜鉛、マグネシウム、アルミニウム等の金属塩、ナトリウムイオン、カリウムイオン、塩化物イオン等を含有するものであつ  
15 てはならない。また、有機物等にあっても同様である。

このようなフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子及び多孔性ポリマーとしては、例えば、ポリエチレンテレフタレート、ポリブチレンテレフタレート等のポリエステル系樹脂、ナイロン樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリスチレン系樹脂、ポリメタクリル酸メチル等のポリ  
20 (メタ) アクリル酸エステルの単独又は共重合樹脂、ポリエチレンと酢酸ビニル又は(メタ)アクリル酸(エステル)等の共重合樹脂等からなるものが挙げられる。これらは単独で用いられてもよく、2種以上が併用されてもよい。中でもポリエステル系樹脂からなるものはフィブリノーゲン吸着性能と、処理後試料の検査値に対する影響のバランスの観点  
25 から好適に用いられる。

フィブリノーゲン吸着性の材料は、一般的に他の疎水性蛋白質も吸着

しやすい特徴がある。このため、上記フィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーは、場合によっては表面特性をコントロールするためにフィルタ表面を親水化処理することが必要となる場合がある。親水化処理剤としては特に限定されず、例えば、ポリビ  
5 ニルアルコール、ポリビニルピロリドン等の親水性の合成高分子や天然の水溶性高分子、ポリエーテル変性シリコーン等の高分子界面活性剤等が挙げられる。

本発明1のフィブリノーゲン除去用フィルタは、表面積が0.5m<sup>2</sup>/g以上であり、空隙率が85%以下である。

10 フィルタの表面積が大きいほどフィブリノーゲンの除去効率は向上し、表面積が0.5m<sup>2</sup>/g未満であると、フィブリノーゲンを除去するためにより多くのフィルタを必要とするため、コストが高くなる。空隙率が85%を超えると、血漿の回収率が低下する。好ましくは表面積が0.7m<sup>2</sup>/g以上であり、空隙率が80%以下である。

15 なお、フィブリノーゲン除去用フィルタの表面積は、平均纖維径、纖維重量、密度から以下の計算式(1)により求められる。

$$\text{表面積} = (4 \times \text{纖維重量}) / (\text{素材密度} \times \text{平均纖維径}) \dots (1)$$

空隙率は、フィルタ素材の密度、重量、圧縮後の体積から以下の計算式(2)により求められる。

20 空隙率 = {1 - 重量 / (素材密度 × 圧縮後体積)} × 100 … (2)

本発明1のフィブリノーゲン除去用フィルタは、フィルタ1g当たり1mg以上のフィブリノーゲンを吸着するものであることが好ましい。

1g当たりのフィブリノーゲン吸着量が1mg未満であると、必要なフィブリノーゲン吸着性能を得るためにより多くのフィルタを必要とし、

25 それによって、血漿の回収量が低下することがある。

本発明1のフィブリノーゲン除去用フィルタを用いて、血漿からフィ

ブリノーゲンを除去することができる。このような本発明 1 のフィブリノーゲン除去用フィルタを用いるフィブリノーゲン除去方法もまた、本発明の 1 つである。

本発明 2 のフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスは、血漿から  
5 フィブリノーゲンを除去するためのものである。

本発明 2 のフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスは、筒状の容器  
にフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリ  
マーが充填されている構造を有する。上記筒状の容器には、上部と下部  
に開口部があり、その中にフィブリノーゲン吸着性の纖維集合体、微粒  
10 子又は多孔性ポリマーが充填され固定されている。

なお、筒状の容器は、好ましくは、円筒状の形状を有するが、角筒状  
等の他の筒状の形状を有していてもよい。上記フィブリノーゲン吸着性  
の纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーを固定するために、容器下部  
の開口部の孔径は小さく絞られていても良く、容器内に固定用のしきり  
15 板や補助材等が挿入されていても良い。

上記フィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子及び多孔性  
ポリマーは、本発明 1 のフィブリノーゲン除去用フィルタに用いられる  
ものと同様のものである。

本発明 2 のフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスを用いて血漿か  
20 らフィブリノーゲンを除去するには、まず、本発明 2 のフィブリノーゲン  
除去用フィルタデバイスの筒状容器内に血漿を注入し、次いで、血漿  
注入側から加圧するか又はろ過血漿出口側から吸引することによって、  
血漿をフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性  
ポリマーを通過させることによる。

25 加圧方法として特に限定されず、例えば、図 1 に示すようなピストン  
を用いる方法等が挙げられる。吸引方法としては特に限定されず、例え

ば、図 2 に示すような内部が減圧された管にデバイスのろ過血漿出口側を挿入する方法が挙げられる。

なお、図 1 に示すフィルタデバイスでは、円筒状の容器 1 内にフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子または多孔性ポリマーからなるフィブリノーゲン吸着材 2 が収納されている。フィブリノーゲン吸着材 2 は、好ましくは、本発明 1 のフィブリノーゲン除去用フィルタで構成されている。また、円筒状の容器 1 には、円筒状の容器 1 の内壁に液密的に接触しつつ移動するピストン 3 が収納される。ピストン 3 は、ピストンロッド 3 a に連結されている。

また、図 2 に示すフィルタデバイスでは、同様に構成された円筒状の容器 1 内にフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子または多孔性ポリマーからなるフィブリノーゲン吸着材 2 が収納されている。フィブリノーゲン吸着材 2 は、好ましくは、本発明 1 のフィブリノーゲン除去用フィルタで構成されている。そして、円筒状の容器 1 の先端には注射針 5 が取り付けられている。注射針 5 が真空採血管 4 の本体を刺通し、真空採血管 4 内に至らされる。そのため、円筒状の容器 1 内に注がれた血漿は、上記フィブリノーゲン吸着材 2 を通過して真空採血管 4 内に導かれる。

また、本発明 2 のフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスを用いて血漿からフィブリノーゲンを除去する方法の他の例としては、筒状、好ましくは円筒状の容器にフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子または多孔性ポリマーからなるフィブリノーゲン吸着材が充填されている構造において、筒状容器の内周面に液密的に接触されて移動され得るピストンがさらに備えられており、フィブリノーゲン吸着材の前記ピストンとは反対側において前記筒状の容器に血漿吸引口が設けられており、ピストンを該血漿吸引口から遠ざかるように移動させて血漿を

筒状容器内に吸引することにより、血漿が前記纖維集合体、微粒子または多孔性ポリマーを通過し、それによってフィブリノーゲンが除去される。この方法では、採取された血漿中に泡が生じ難い。

上記のように泡が生じ難いフィブリノーゲン除去方法に用いられる  
5 フィブリノーゲン除去用フィルタデバイスの構造例を図3に示す。図3に  
示す構造では、円筒状部材1内に、フィブリノーゲン吸着材2が収納さ  
れている。フィブリノーゲン吸着材2は、纖維集合体、微粒子または多  
孔性ポリマーからなり、好ましくは、本発明1に従って構成されている。  
そして、フィブリノーゲン吸着材2の上方にはピストン3が配置されて  
10 いる。ピストン3の外周面は円筒状部材1の内周面に液密的に接触され  
ている。このピストン3は、ピストン3の上方に連結されたピストンロ  
ッド39を操作することにより円筒状部材1内において、円筒状部材1  
の長さ方向に移動され得る。他方、フィブリノーゲン吸着材2の下方に  
は、すなわちフィブリノーゲン吸着材2のピストン3が配置されている  
15 側とは反対側には、血漿吸引口1aが設けられている。このフィルタデ  
バイスでは、血漿吸引口1aを血漿に浸した状態で、ピストン3を上方  
に移動させることにより、すなわち血漿吸引口1aから遠ざかる方法に  
移動させることにより、血漿が吸引され、円筒状部材1内に導かれる。  
この場合に、血漿がフィブリノーゲン吸着材2を通過することにより濾  
20 過され、フィブリノーゲンが除去される。

上記のように、本発明2のフィブリノーゲン除去用フィルタデバイス  
を用いて血漿からフィブリノーゲンを除去する方法もまた、本発明の1  
つである。

## 25 図面の簡単な説明

図1は、ピストンを用いてフィブリノーゲン除去用フィルタデバイス

を血漿注入側から加圧する方法を示す図である。

図2は、内部が減圧された管を用いてフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスをろ過血漿出口側から吸引する方法を示す図である。

図3は、ピストンが円筒状部材内に配置されており、該円筒状部材内  
5 にフィブリノーゲン吸着材が収納されており、吸引により血漿をろ過す  
る方法を説明するための略図的正面図である。

#### 発明を実施するための最良の形態

以下に実施例を掲げて本発明を更に詳しく説明するが、本発明はこれ  
10 ら実施例のみに限定されるものではない。

##### 実施例1

平均直径1. 8  $\mu\text{m}$ のポリエチレンテレフタレート製不織布（目付4  
0 g / m<sup>2</sup>）を直径15 mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1. 0 g 量  
り取った。これをJMS社製10 mLシリンジに充填し、加圧して4 m  
15 Lの体積になるように圧縮した。

##### 実施例2

平均直径1. 8  $\mu\text{m}$ のポリエチレンテレフタレート製不織布（目付4  
0 g / m<sup>2</sup>）を直径15 mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1. 0 g 量  
り取った。これをJMS社製10 mLシリンジに充填し、加圧して3.  
20 2 mLの体積になるように圧縮した。

##### 実施例3

平均直径1. 8  $\mu\text{m}$ のポリエチレンテレフタレート製不織布（目付4  
0 g / m<sup>2</sup>）を直径15 mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1. 0 g 量  
り取った。これをJMS社製10 mLシリンジに充填し、加圧して2.  
25 4 mLの体積になるように圧縮した。

##### 実施例4

平均直径3.5 μmのポリエチレンテレフタレート製不織布（目付40 g/m<sup>2</sup>）を直径15mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1.0g量り取った。これをJMS社製10mLシリンジに充填し、加圧して4mLの体積になるように圧縮した。

### 5 実施例5

平均直径3.5 μmのアクリル／ポリエステル製不織布（商品名シャレリアC1040（旭化成社製）、70%/30%、目付40 g/m<sup>2</sup>）を直径15mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1.0g量り取った。これをJMS社製10mLシリンジに充填し、加圧して2mLの体積に10なるようにした。

### 実施例6

平均直径3.5 μmのアクリル／レーヨン製不織布（商品名シャレリアCR040（旭化成社製）、65%/35%、目付40 g/m<sup>2</sup>）を直径15mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1.0g量り取った。これをJMS社製10mLシリンジに充填し、加圧して2mLの体積になるようにした。

### 比較例1

平均直径1.8 μmのポリエチレンテレフタレート製不織布（目付40 g/m<sup>2</sup>）を直径15mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1.0g量り取った。これをJMS社製10mLシリンジに充填し、加圧して7mLの体積になるように圧縮した。

### 比較例2

平均直径6.5 μmのポリエチレンテレフタレート製不織布（目付40 g/m<sup>2</sup>）を直径15mmに打ち抜いたものを複数枚重ね、1.0g量り取った。これをJMS社製10mLシリンジに充填し、加圧して4mLの体積になるように圧縮した。

## 比較例 3

平均直径 3. 5  $\mu\text{m}$  のポリプロピレン製不織布（商品名エルタスガード（旭化成社製）、目付 17 g / m<sup>2</sup>）を直径 15 mm に打ち抜いたものを複数枚重ね、1. 0 g 量り取った。これを JMS 社製 10 mL シリンジに充填し、加圧して 2 mL の体積になるようにした。

## 実験例 1

実施例 1～6 及び比較例 1～3 で得られたフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスのシリンジ内部の不織布上に、フィブリノーゲン濃度が 100 mg / dL であるヒト血漿を注入し、ピストンで加圧することによってろ過を行った。ろ過後に回収できた血漿の割合及び残存するフィブリノーゲン量をトロンビン時間法に従って求めた。なお、実施例 1～6 及び比較例 1～3 で得られたフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスのフィルタの表面積は上記の計算式（1）に従って算出し、空隙率は上記の計算式（2）に従って算出した。結果を表 1 に示した。

15

表 1

	材質	表面積 (m <sup>2</sup> /g)	空隙率(%)	フィブリノーゲン 残存量 (mg/dL)	血漿回収率 (%)
実施例 1	ポリエチレンテレフタレート	1.61	83.9	10 以下	55%
実施例 2	ポリエチレンテレフタレート	1.61	77.4	10 以下	63%
実施例 3	ポリエチレンテレフタレート	1.61	69.8	10 以下	68%
実施例 4	ポリエチレンテレフタレート	0.83	83.9	10 以下	51%
実施例 5	アクリル/ポリエステル	0.83	83.9	10 以下	42%
実施例 6	アクリル/レーヨン	0.83	83.9	10 以下	40%
比較例 1	ポリエチレンテレフタレート	1.61	89.7	10 以下	20%
比較例 2	ポリエチレンテレフタレート	0.45	83.9	83	45%
比較例 3	ポリプロピレン	0.83	83.9	92	67%

## 実験例 2

実施例 1～6 及び比較例 1～3 で用いた不織布をそれぞれ 1.0 g 量り取り、フィブリノーゲン濃度 235 mg / dL のヒト血漿に浸漬した後、不織布のみを除去し、残った血漿中のフィブリノーゲン濃度を実験例 1 と同様の方法にて測定することによってそれぞれ不織布 1 g 当たりの吸着量を求めた。結果を表 2 に示した。

表 2

	フィブリノーゲン 吸着量 (mg/g)
実施例 1	2.70
実施例 2	3.04
実施例 3	3.30
実施例 4	1.90
実施例 5	1.68
実施例 6	1.50
比較例 1	2.40
比較例 2	0.72
比較例 3	0.50

実験 1、2 の結果より表面積 0.5 m<sup>2</sup> / g 以上かつ空隙率 85% 以下のフィルタを用いた場合、100 mg / mL の血漿を流通したときにフィブリノーゲンが測定限界以下まで除去されていた。表面積が 0.5 m<sup>2</sup> / g 未満である場合（比較例 2）は、フィブリノーゲンが除去しきれず、また、空隙率 85% 以上のとき（比較例 1）は血漿の回収率が 20% と非常に低かった。また材質によっては、フィブリノーゲン吸着量が低く、ポリプロピレンを用いた比較例 3 の場合もフィブリノーゲンを除去しき

れなかった。

また、実施例1、4、5で得られたフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスによるフィブリノーゲンの除去処理の検査値への影響は表3に示した通りほとんどなかった。

5

表 3

	単位	対照(血漿)	実施例1	実施例4	実施例5
総タンパク(TP)	g/dl	5.5	5.4	5.4	5.4
A/G		1.6	1.7	1.8	1.7
アルブミン	g/dl	3.4	3.4	3.5	3.4
総ヒリルビン(T-ヒリルビン)	mg/dl	0.1	0.1	0.1	0.1
直接ヒリルビン(D-ヒリルビン)	mg/dl	0.0	0.0	0.0	0.0
GOT	IU/l	17	18	17	17
GPT	IU/l	7	7	7	7
ALP	IU/l	233	235	231	232
LDH	IU/l	153	148	150	150
コリンエステラーゼ'(ChE)	IU/l	4285	4303	4280	4300
γ-GTP	IU/l	48	47	47	46
LAP	IU/l	46	45	46	45
CPK	IU/l	61	64	65	65
アミラーゼ(血)	IU/l	50	49	50	51
総脂質	mg/dl	455	455	440	466
LDL-コレステロール(直接)	mg/dl	117	113	113	114
β-リボタンパク	mg/dl	369	363	368	370
遊離脂肪酸(NEFA)	mEq/l	0.47	0.48	0.47	0.47
リン脂質(PL)	mg/dl	185	177	182	181
尿酸(UA)	mg/dl	5.2	5.2	5.2	5.2
尿素窒素(BUN)	mg/dl	7.2	7.0	7.3	7.3
クレアチニン(CRE)	mg/dl	0.79	0.77	0.77	0.77
Na	mEq/l	171	172	171	171
Cl	mEq/l	88	88	88	88
K	mEq/l	4.1	4.1	4.1	4.1
Ca	mg/dl	7.9	7.8	7.8	7.7
無機リン(IP)	mg/dl	1.5	1.5	1.5	1.5
Mg	mg/dl	1.4	1.4	1.4	1.4
血清鉄(Fe)	mg/dl	54	56	54	56
TIBC	μg/dl	226	226	228	228
UIBC	μg/dl	172	170	174	172

### 産業上の利用可能性

本発明によれば、血漿中に含まれるフィブリノーゲン以外のタンパク質を吸着除去せずにフィブリノーゲンのみを吸着除去できるので、処理後試料を対象とする検査結果に影響が及ばず、ヘパリン投与患者の血清  
5 中からたびたびフィブリンが析出してくるという問題を完全に解決できる。

## 請求の範囲

1. 血漿からフィブリノーゲンを除去するためのフィルタであって、  
5 フィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマー  
一からなり、表面積が  $0.5 \text{ m}^2/\text{g}$  以上であり、空隙率が 85% 以下であることを特徴とするフィブリノーゲン除去用フィルタ。
2. フィルタ 1 g 当たり  $1 \text{ mg}$  以上のフィブリノーゲンを吸着することを特徴とする請求項 1 に記載のフィブリノーゲン除去用フィルタ。
3. フィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔  
10 性ポリマーは、ポリエステル系樹脂からなるものであることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のフィブリノーゲン除去用フィルタ。
4. 請求項 1、2 又は 3 に記載のフィブリノーゲン除去用フィルタを用いて、血漿からフィブリノーゲンを除去することを特徴とするフィブリノーゲン除去方法。
- 15 5. 血漿からフィブリノーゲンを除去するためのフィルタデバイスであって、筒状の容器にフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーが充填されていることを特徴とするフィブリノーゲン除去用フィルタデバイス。
6. 請求項 5 に記載のフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスの  
20 容器内に血漿を注入し、血漿注入側から加圧するか又はろ過血漿出口側から吸引することによって、血漿をフィブリノーゲン吸着性を有する纖維集合体、微粒子又は多孔性ポリマーを通過させることを特徴とするフィブリノーゲン除去方法。
7. 請求項 5 に記載のフィブリノーゲン除去用フィルタデバイスの  
25 筒状の容器内に、該筒状の容器の内周壁に液密的に接触し、かつ筒状の容器の長さ方向に移動し得るピストンが備えられており、前記纖維集合

体、微粒子または多孔性ポリマーの前記ピストンが配置されている側とは反対側において筒状の容器に血漿吸引口が備えられており、

前記血漿吸引口を血漿に浸した状態でピストンを該血漿吸引口から遠ざかる方向に移動させることにより、筒状の容器内に血漿を吸引し、か

- 5 つ前記纖維集合体、微粒子または多孔性ポリマーを通過させることを特徴とするフィブリノーゲン除去方法。

図 1

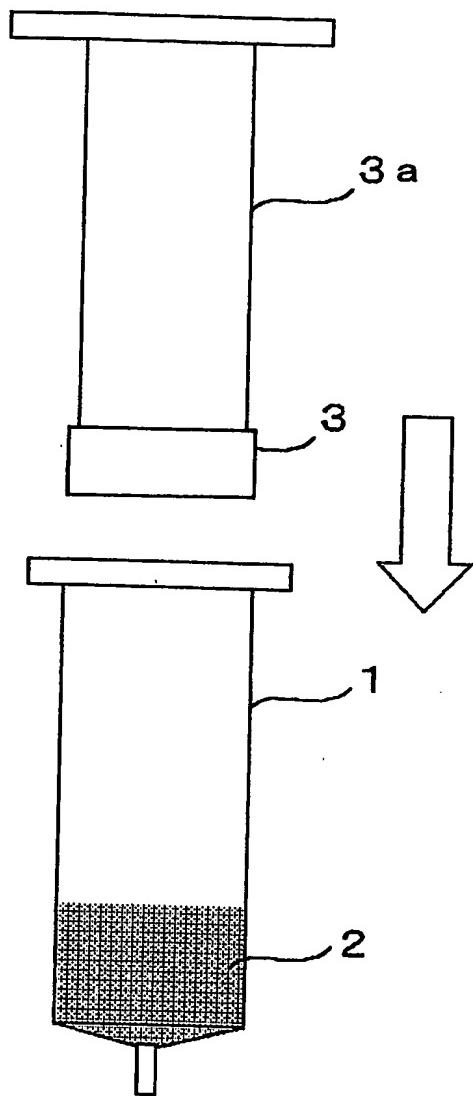


図 2

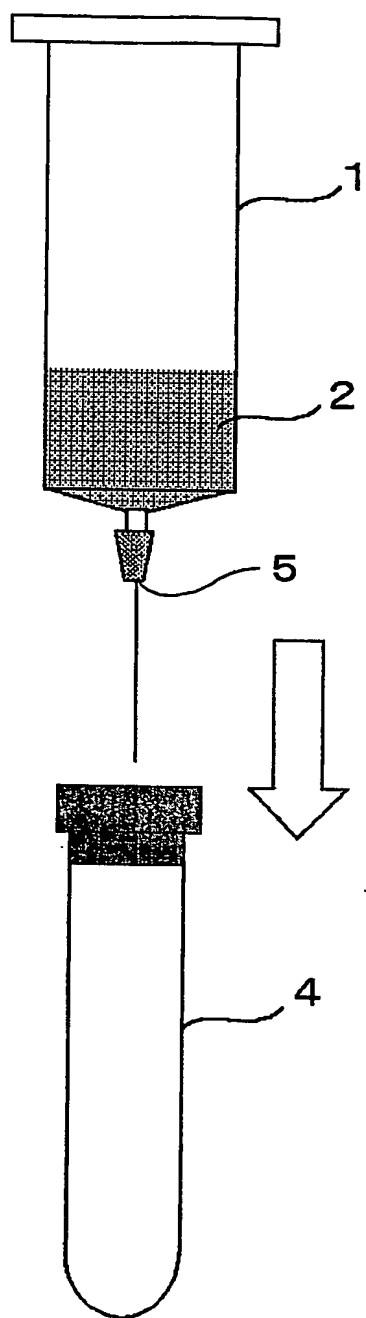
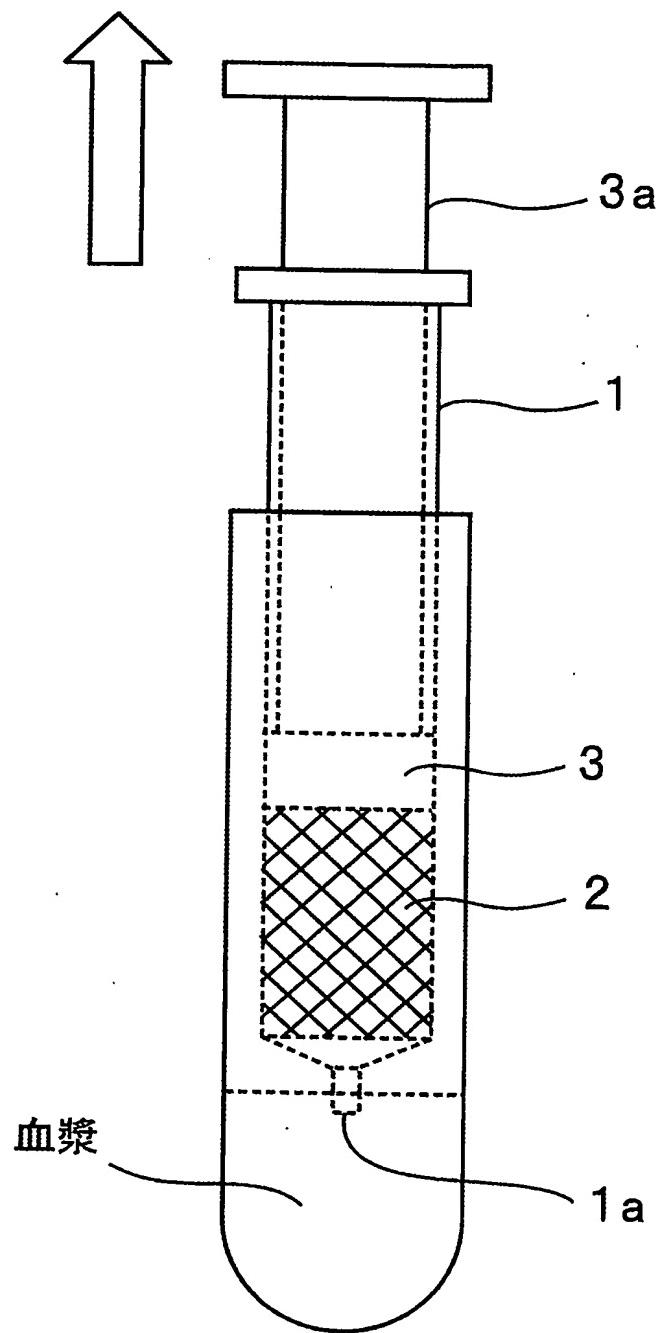


図 3



**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**

International application No.

PCT/JP2004/000480

**A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**  
Int.Cl<sup>7</sup> G01N33/48, B01J20/26

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

**B. FIELDS SEARCHED**

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)  
Int.Cl<sup>7</sup> G01N33/48, B01J20/26

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2004  
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2004 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

**C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT**

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2000-309539 A (Toyobo Co., Ltd.), 07 November, 2000 (07.11.00), (Family: none)	1-7
A	JP 11-285607 A (Toyobo Co., Ltd.), 19 October, 1999 (19.10.99), (Family: none)	1-7
A	JP 11-267463 A (Toyobo Co., Ltd.), 05 October, 1999 (05.10.99), (Family: none)	1-7

Further documents are listed in the continuation of Box C.

See patent family annex.

- \* Special categories of cited documents:
- "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
- "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
- "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
- "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
- "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
- "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
- "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
- "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
- "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  
29 March, 2004 (29.03.04)

Date of mailing of the international search report  
13 April, 2004 (13.04.04)

Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Faxsimile No.

Telephone No.

## A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C17 G01N33/48、B01J20/26

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C17 G01N33/48、B01J20/26

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2004年
日本国登録実用新案公報	1994-2004年
日本国実用新案登録公報	1996-2004年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 2000-309539 A (東洋紡績株式会社) 2000. 11. 07 (ファミリーなし)	1-7
A	JP 11-285607 A (東洋紡績株式会社) 1999. 10. 19 (ファミリーなし)	1-7
A	JP 11-267463 A (東洋紡績株式会社) 1999. 10. 05 (ファミリーなし)	1-7

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)
- 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&amp;」同一パテントファミリー文献

## 国際調査を完了した日

29. 03. 2004

## 国際調査報告の発送日

13. 4. 2004

## 国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

亀田 宏之

2 J 9015

電話番号 03-3581-1101 内線 3251